

個別の指導計画等の作成について



まっすぐかのや



令和5年8月8日（火）
鹿屋特別支援学校 有田 研二

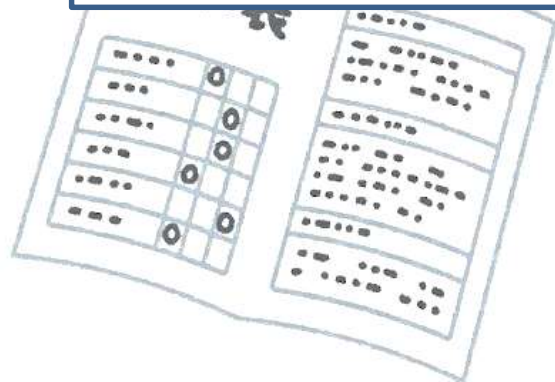
個別の指導計画

- 1 個別の指導計画とは？
- 2 個別の指導計画の作成と運用
- 3 短期目標作成のポイント

1 個別の指導計画とは？

特別な支援が必要な子どもたちの

通知表



のこと

1 個別の指導計画とは？

千人いれば
千通り

なぜ目標や評価を文で書くのか？

子どもの

実態

が

一番の
ポイント

違うから

2 個別の指導計画の作成と運用

子どもの指導・支援を行う上で大切にしたいこと

- ① 子どもはどうなりたいと思っている？
- ② 保護者はどうなってほしいと思っている？
- ③ 子どものこれまでの育ちは？
- ④ 子どもは、何が得意で、何が苦手？
- ⑤ 子どもの何を伸ばしていきたい？
- ⑥ どんな指導や支援が有効？（効果がない？）
- ⑦ 子どもは何ができるようになった？
- ⑧ 保護者に子どもの育ちを説明できる？
- ⑨ 他の先生と情報を共有してる？
- ⑩ 次の担任、次の学校へ過不足なく引き継げる？

2 個別の指導計画の作成と運用

個別の指導計画に記載する内容

① 子どもはどうなりたいと思っている？
② 保護者はどうなっていてほしいと思っている？

児童生徒・保護者の願い

③ 子どものもこれまでの育ちは？
④ 子どもは、何か得意で、何か苦手？

児童生徒の実態

⑤ 長期目標（1年）・短期目標（学期）

⑥ どんな指導や支援が手立て（効果がない？）

⑦ 子どもは何ができるようになった？

評価

⑧ 保護者に子どもの育ちを説明できる？

⑨ 他の先生と情報を共有している？

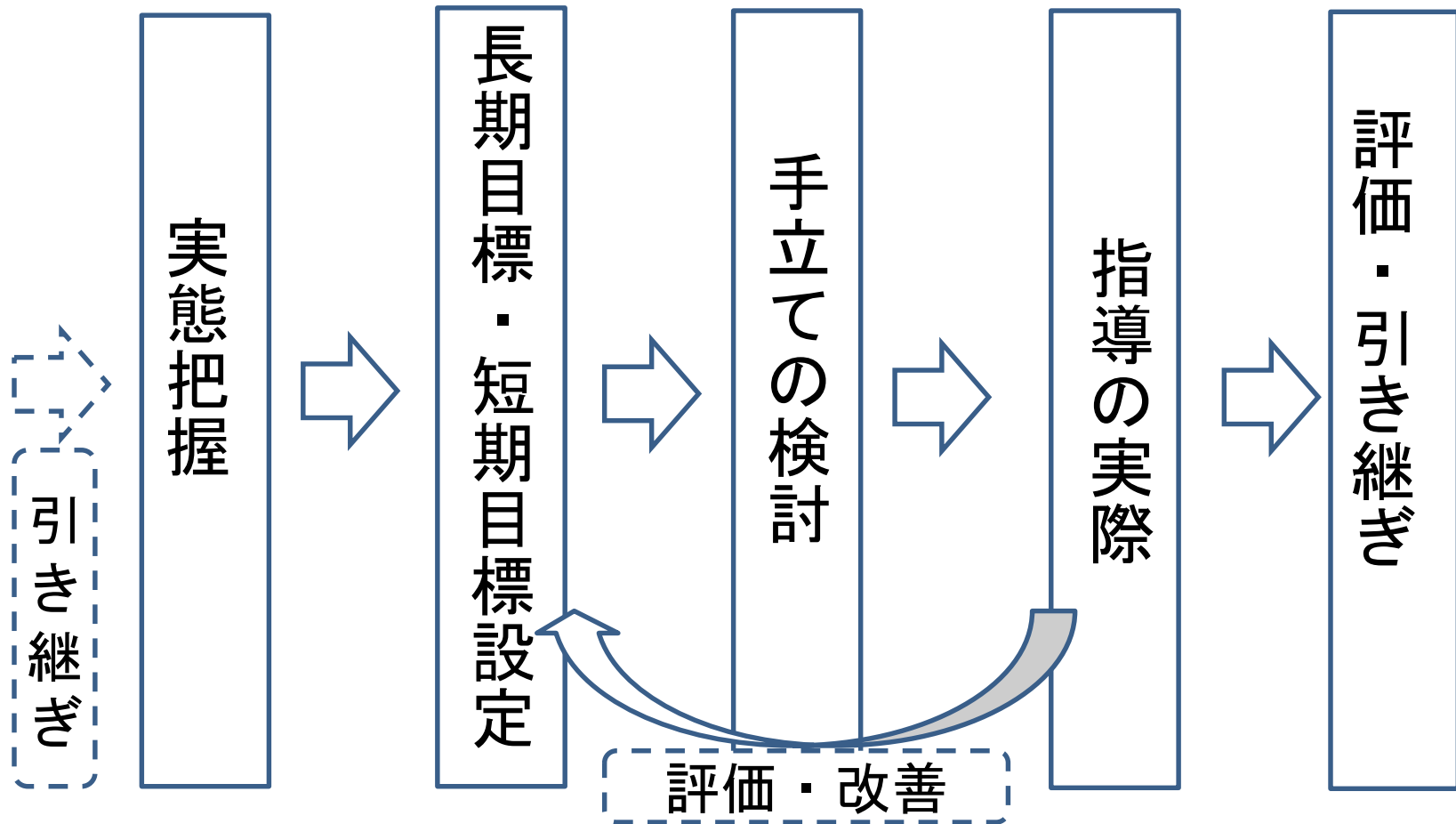
保護者への説明

情報の共有、引き継ぎ

⑩ 次の担任、次の学校へ過不足なく引き継げる？

2 個別の指導計画の作成と運用

個別の指導計画の作成の流れ



2 個別の指導計画の作成と運用

長期目標（1年）

長期目標は、子どもの実態と保護者の願いを踏まえ、指導の方向性を示すものになります。

- 一人で手を洗うことができる。
- ルールを守って遊ぶことができる。
- 文章の内容を理解することができる。
- 英語の長文問題を解くことができる。
- 自分の気持ちを伝えることができる。

など

2 個別の指導計画の作成と運用

短期目標（学期）

短期目標は、長期目標を踏まえた具体的な目標です。
学期など、比較的短い期間における目標になります。

<これらの目標は短期目標？>

- ① 学校に慣れることができる。
- ② 風邪をひかずに元気に過ごすことができる。
- ③ 友達と仲良くすることができる。
- ④ 授業に集中して取り組むことができる。
- ⑤ 言われたことを守ることができる。

2 個別の指導計画の作成と運用

【評価の語尾】

達成度はどれくらい？

いつでも
どこでも
だれとでも

100

% 「～することができた。」

100

% 「～できるようになった。」

50

(個人の見解)

%

「～できつつある。」

20

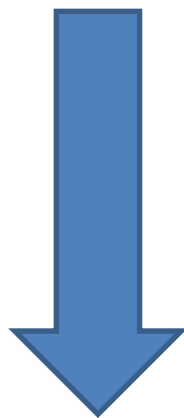
(個人の見解)

%

「～できることがあった。」

2 個別の指導計画の作成と運用

毎学期の目標を作成するときには
2～3か月後の子どもの姿を
思い浮かべる。



100%の
達成度を
目指して

【評価の語尾】

「～することができた。」

「～できるようになった。」

3 短期目標作成のポイント

いつでも
どこでも
だれとでも
できる

これを 目標に入れる



3 短期目標作成のポイント

① 行動目標化

② 「条件」と「規準」

3 短期目標作成のポイント

① 行動目標化できていないと . . .

例：「情緒の安定を図る。」

例：「コミュニケーション能力を高める。」

例：「健康の保持増進に努める。」



「～できるようになった」の評価ができる？

3 短期目標作成のポイント

① 行動目標化



「情緒の安定を図る。」目標にもいろいろある。

「遊びのルールを守り、友達と仲良く遊ぶことができる。」

「きまりを守って、教師と一緒に集団行動に落ち着いて参加することができる。」

「自分の気持ちや考えを相手に分かるように伝えることができる。」

2～3ヶ月後の「できる」子どもの姿が想像できるように

3 短期目標作成のポイント

② 「条件」と「規準」がないと・・・

例：「読み書きのテストができる。」

例：「音読ができる。」

例：「掛け算九九ができる。」



「～できるようになった」の評価ができる？

3 短期目標作成のポイント



② 「条件」をプラス

「1年生の漢字の読み書きのテストができる。」

「分かち書きの線を見ながら音読ができる。」

「掛け算九九の1～5の段までのテストができる。」

「～できるようになった」の評価まであと一息

3 短期目標作成のポイント



② 「条件」と「規準」をプラス

「1年生の漢字の読み書きのテストで7割正解することができる。」

「分かち書きの線を見ながら2文程度の音読ができる。」

「掛け算九九の1～5の段までのテストで8割正解することができる。」

2～3ヶ月後の「できる」子どもの姿が想像できるように

3 短期目標作成のポイント

② 「条件」が違おうと・・・

「イライラしたときは、担任と一緒に深呼吸をして、
落ち着くための練習に取り組むことができる。」

「イライラしたときはSSTを思い出し、深呼吸をして
落ち着くための練習に取り組むことができる。」

「イライラしたときは、イラストカードを見ながら
深呼吸をして、落ち着くための練習に取り組むこと
ができる。」

子どもの実態に合わせた目標が立てられる。

3 短期目標作成のポイント

②「規準」があると・・・

- 5割、正解することができる。
- 10問中8問、正解することができる。
- 5分間取り組むことができる。
- 教師と決めた時間（10分程度）着席することができる。

など

客観的な評価ができる

3 短期目標作成のポイント

① 行動目標化

② 「条件」と「規準」

ありがとうございました。

では、個別の指導計画について、より
具体的に考えていきましょう。

